

令和5年度校内研究テーマ

**グローバルリーダーに求められる
確かな学力の育成
～情報活用能力の育成～（1年次）**

1 テーマ設定の理由

2 「情報活用能力の育成」を
目指す授業研究とは

3 具体的な取組に向けて

**グローバルリーダーに求められる
確かな学力の育成
～情報活用能力の育成～（1年次）**

附属刷新プランH26.1.31
1 グローバル人材の育成

【学校教育目標】

グローバルリーダー（Think globally, act locally）の育成
～未来へ向かって高い志を持ち，人や社会と豊かに関わり，
自己を磨き合う子どもの育成～

[学びに向かう力・人間性等]

○グローバルな視点を持ち世界やふるさとに貢献できる人間性の涵養

[思考力・判断力・表現力等]

○未知の状況にも対応できる思考力，判断力，表現力の育成

[知識・技能]

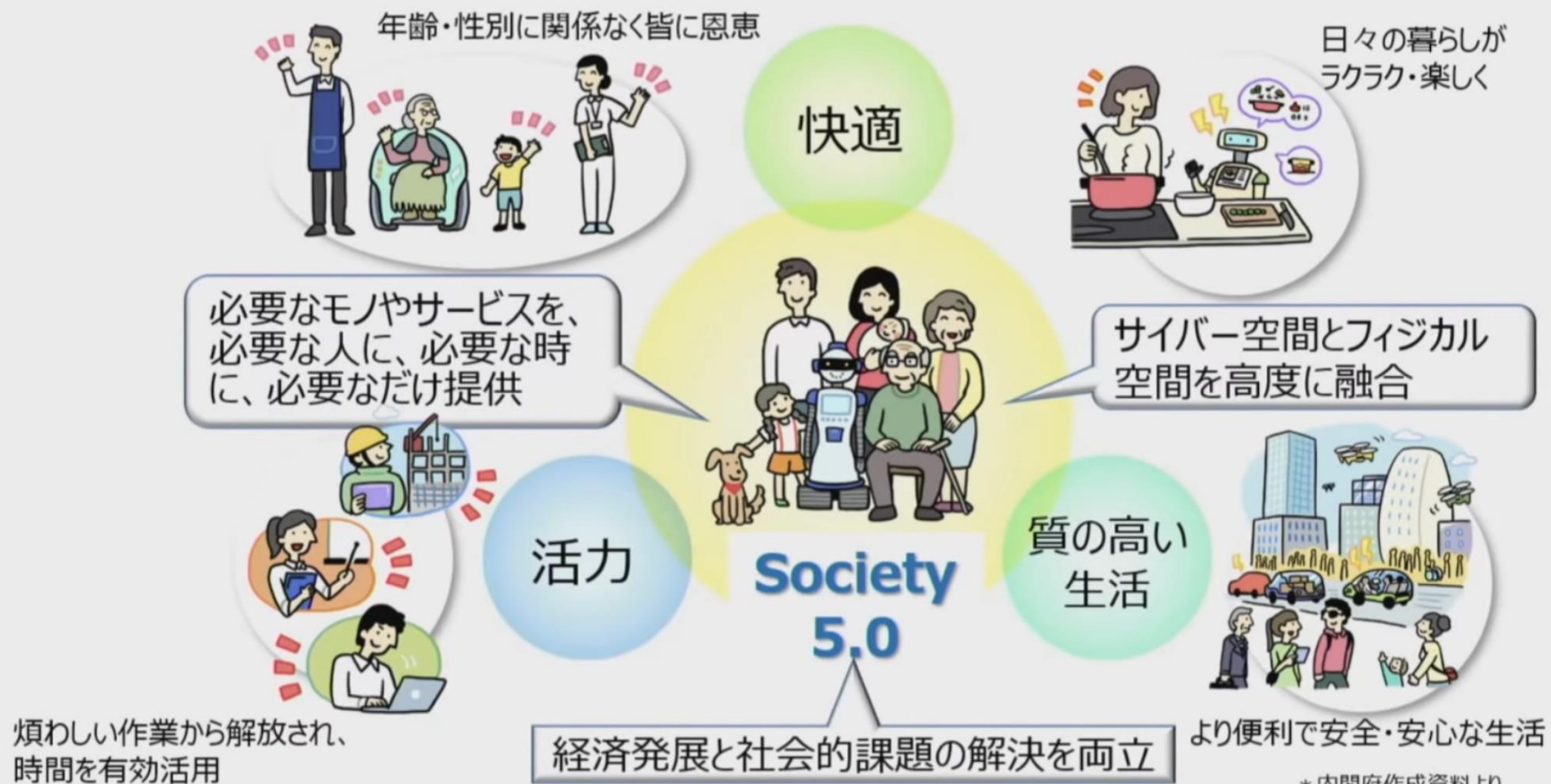
○生きて働く知識・技能の習得

**グローバルリーダーに求められる
確かな学力の育成
～情報活用能力の育成～（1年次）**

【社会からの要請】

新たな社会“Society5.0”

- IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット等をはじめとする**技術革新が一層進展**。
- サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、**経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会**。
- 幅広い産業構造が変革し、**人々の働き方やライフスタイル等が変化**。
- 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、5番目の社会（Society）。



【社会からの要請】

令和5年3月8日 中央教育審議会

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

【社会の現状や変化】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・少子化・人口減少や高齢化
- ・グローバル化・地球規模課題
- ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・共生社会・社会的包摂
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・18歳成年・子ども基本法 等

時代の変化への対応（流行）
 社会を牽引する駆動力の中核を担う

第3期計画期間中の成果
<ul style="list-style-type: none"> ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善 ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備 ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等

第3期計画期間中の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞 ・不登校・いじめ重大事態等の増加 ・学校の長時間勤務や教師不足 ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化 ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷 ・博士課程進学率の低さ 等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論

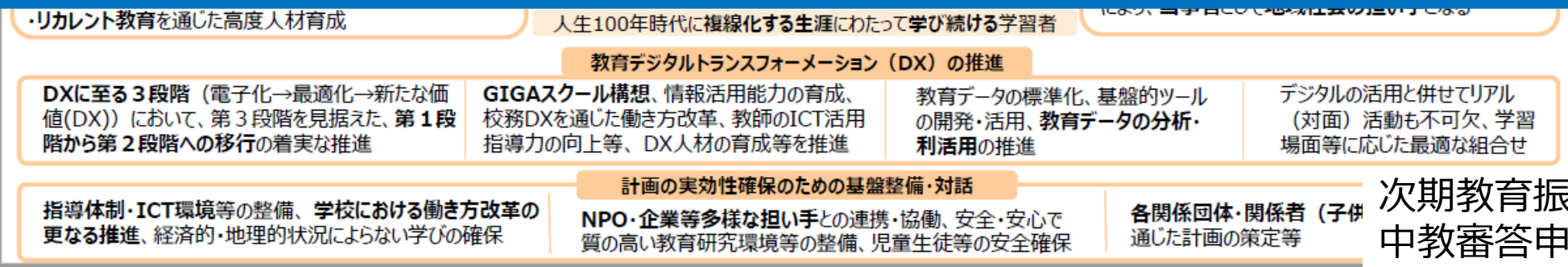
日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上

- ・多様な個人それぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方
- ・幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む
- ・日本発の調和と協調（Balance and Harmony）に基づくウェルビー

教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進

教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、教育データの分析・利活用の推進



次期教育振興基本計画
 中教審答申R5. 3. 8

【児童の実態】

○R4年度全国学力状況調査

- ・ 知・技 … 国語89.9%、算数84.8%
- ・ 思・判・表 … 国語79.9%、算数78.5%

附小ビジョン 9マトリクス

育成を目指す資質・能力	知（確かな学力）	徳（豊かな心）	体（健やかな体）
知識・技能	言語能力	礼儀	持久力
思考力・判断力・表現力	情報活用能力	公共	自己認知力
学びに向かう力・人間性	調整力	寛容	自律

「小学校学習指導要領解説 総則編 p 7」

(3) 総則改正の要点

- ・言語能力、**情報活用能力**、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現在的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科横断的な視点に基づき育成されるよう改善した。

令和5年度校内研究テーマ

グローバルリーダーに求められる 確かな学力の育成 ～情報活用能力の育成～（1年次） 【学校教育目標】

グローバルリーダー（Think globally, act locally）の育成
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、
自己を磨き合う子どもの育成～

【社会からの要請】



【児童の実態】

OR4年度全国学力状況調査

- ・ 知・技 … 国語89.9%、算数84.8%
- ・ 思・判・表 … 国語79.9%、算数78.5%

1 テーマ設定の理由

2 「情報活用能力の育成」を
目指す授業研究とは

3 具体的な取組に向けて

「小学校学習指導要領解説 総則編 p 7」

(3) 総則改正の要点

- ・ 言語能力、**情報活用能力**、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現在的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科横断的な視点に基づき育成されるよう改善した。

「教育の情報化に関する手引―追補版―（令和2年6月）」

《情報活用能力》

情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な力

「小学校学習指導要領解説 総則編 p 48」

(1) 学習の基盤となる資質・能力 (第1章第2の2の(1))

イ 情報活用能力

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要となる。また、情報技術は人々の生活にますます身近なものとなっていくと考えられるが、そうした情報技術を手段として学習や日常生活に活用できるようにしていくことも重要となる。

イ 情報活用能力

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。

情報活用能力

情報及び情報機器を適切かつ効果的に活用しながら

「Ⅰ問題を発見」し、「Ⅱ問題を解決」する

プロセスで育成される

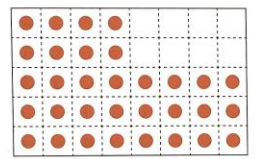
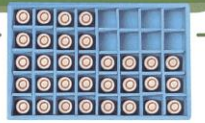
2年算数 「かけ算」

ねらい

ぴったりでないものの総数を、アレイ図の操作や加工をして考えたり、アレイ図と式を往還して説明したりすることを通して、九九を用いて考えることができる。



10 牛にゆうは
何本あるでしょうか。



もんだいをつかむ
新しく考えることは
何かな。

ゆき
そのままでは
九九がつかえないね。

はてな
牛にゆうの数を計算でもとめるには、
どうすればいいのかな。

自分の考えをもつ
今までに学習した
どんなことが
つかえるかな。

1 図や式をつかって、牛にゆうの
数のもとめ方を考えましょう。

自分の考えを
友だちに話して
みるのもいいね。

いろいろなもとめ方を
考えてみよう。

①本時のめあてをもつ

①

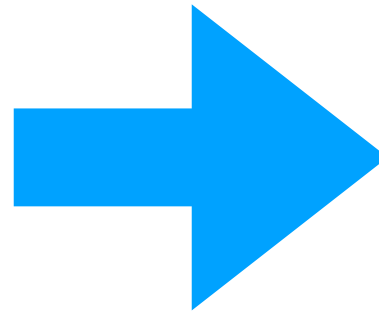


チョコレートを
食べちゃった！

②



ぴったり数がそ
ろっていないから九
九が使えないぞ



めあて

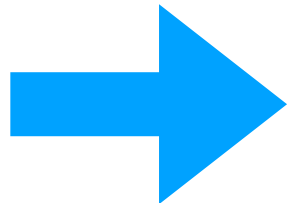
ぴったりではないものの数の求め方を考えよう

授業研究とは

②見通し（予想）を交流し、課題をもつ

数えればわかる

どうにかしたら九九が使えるんじゃないかな



課題
九九を使ってぴったりでないものの数を求めるには、
どうしたらよいかな？

2ずつなら数えられるよ

分けたら九九が使えるんじゃない

色々な求め方ができるかも

③ 自己解決場面



既習の九九を使って求められないか考える姿

7×8の学習の時に得た「分けてたす」考えを試みる姿



- ・ アレイ図に直接自分の考えを書き込むことができる。（加工のしやすさ）
- ・ 考えの修正もロイロノートのシートの上では容易に行える。（修正の容易さ）
- ・ 同じシートを複製して、複数の考えを練ることができる。（複製の容易さ）

④考えを共有する場面



私と同じ「分けてたす」考えを使っているね

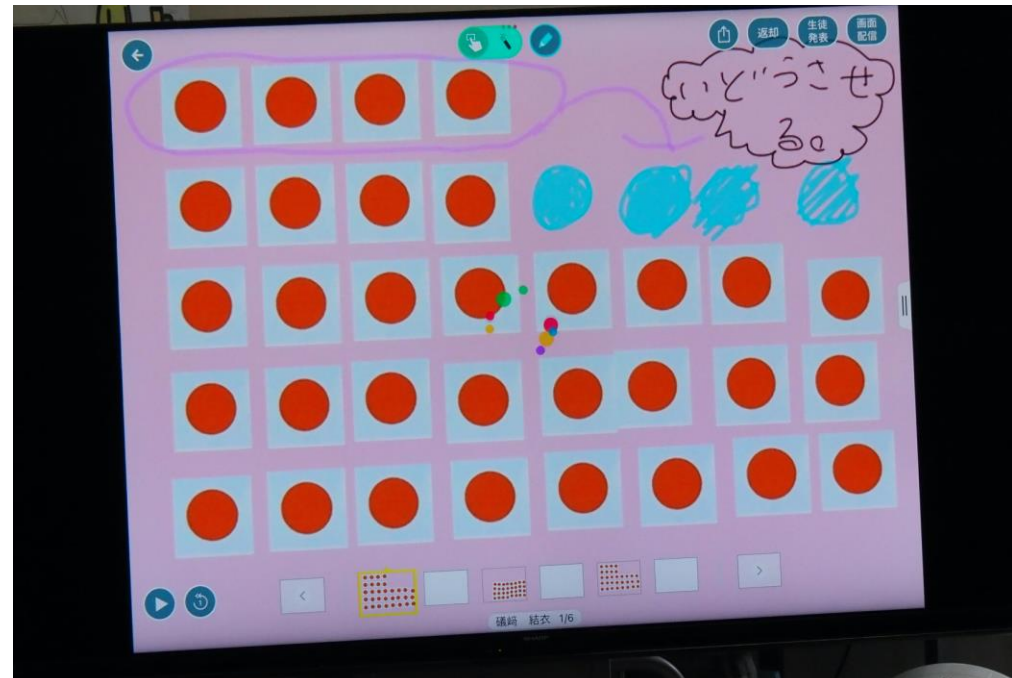
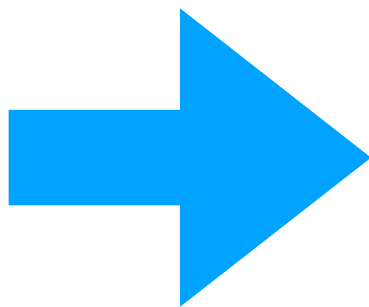
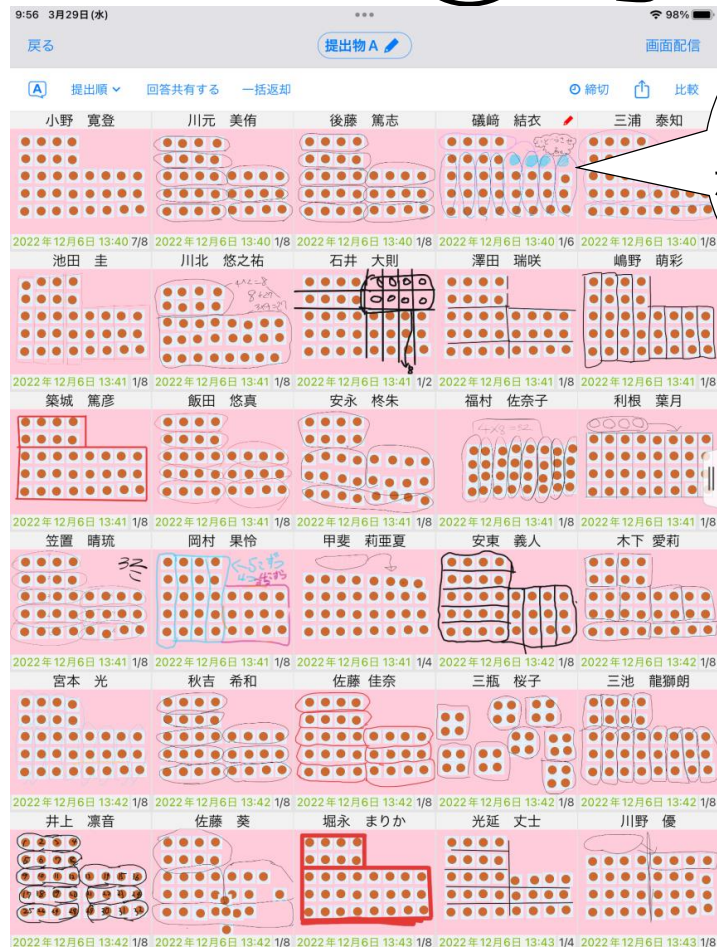
- ・ ロイロノートの回答共有機能を使えば、クラスの友だちの考え方を自由に見ることができる。(情報収集)
- ・ 子ども達は自分の考えと比較して、共通点や相違点を見つけることができる。

「分けてたす」考えにも「縦に分ける」ものと「横に分ける」ものがあるね

2 「情報活用能力の育成」を目指す

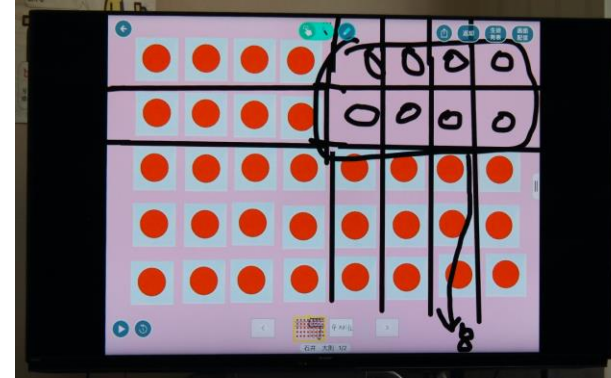
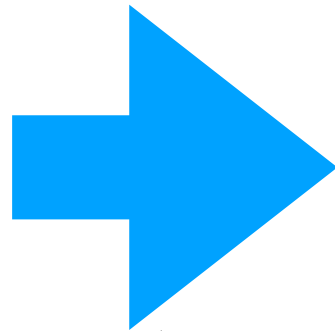
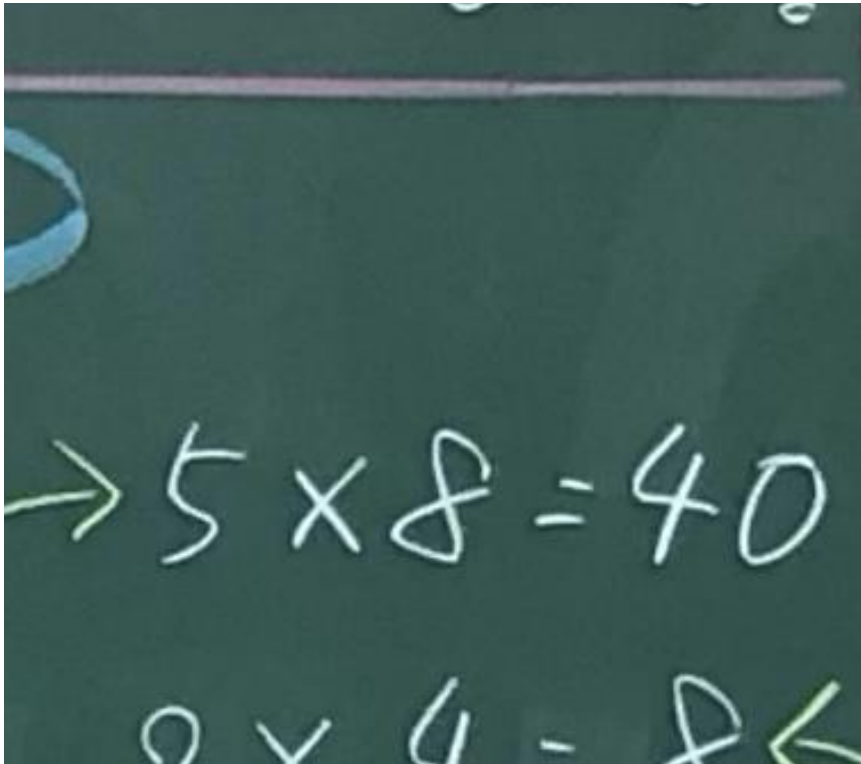
授業研究とは

④ 考えを深めていく場面



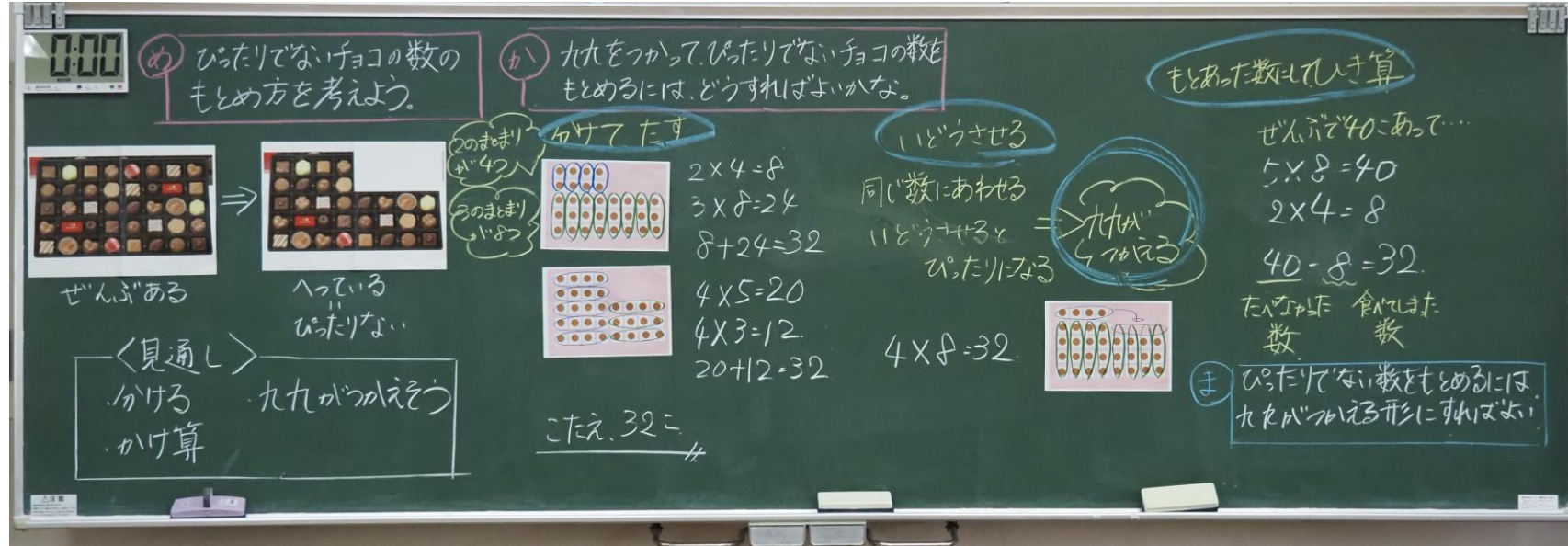
拡散した情報（多様な考え）の中から、焦点化して深めていく

④考えを深めていく場面



- ・ 式を提示して、アレイ図に再度考えを書かせる。
- ・ iPadの画面を見せながら、自分の考えを説明する活動につなげることができる。（考えの発信）

⑤ 振り返り・板書



- ・ 「振り返り」では、記述の苦手な児童においては音声入力機能を活用すれば抵抗感なく本時の振り返りを行うことができる。
- ・ 考えを残す場としての黒板の役割があることから、板書とICTのベストミックスを図っていく必要がある。

情報及び情報機器を適切かつ効果的に活用しながら 「Ⅰ問題を発見」するプロセス

①本時のめあてをもつ

①

②

チョコレートを食べちゃった!

ぴったり数がそろっていないから九九が使えないぞ

めあて
ぴったりではないものの数の求め方を考えよう

②見通し（予想）を交流し、課題をもつ

②

数えればわかる

どうにかしたら九九が使えるんじゃないかな

課題
九九を使ってぴったりでないものの数を求めるには、どうしたらよいか?

2ずつなら数えられるよ

分けたら九九が使えるんじゃない

色々な求め方ができるかも

「Ⅱ問題を解決」するプロセス

③自己解決場面

既習の九九を使って求められないか考える姿

7×8の学習の時に得た「分けてたず」考えを試みる姿

- ・アレイ図に直接自分の考えを書き込むことができる。（加工のしやすさ）
- ・考えの修正もロイロノートのシートの上では容易に行える。（修正の容易さ）
- ・同じシートを複製して、複数の考えを練ることができる。（複製の容易さ）

④考えを共有する場面

私と同じ「分けてたず」考えを使っているね

「分けてたず」考えにも「縦に分ける」ものと「横に分ける」ものがあるね

- ・ロイロノートの回答共有機能を使えば、クラスの友だちの考え方を自由に見ることができる。（情報収集）
- ・子ども達は自分の考えと比較して、共通点や相違点を見つけることができる。

④考えを深めていく場面

この人の考えが気になります

拡散した情報（多様な考え）の中から、焦点化して深めていく

情報活用能力育成のプロセス

情報及び情報機器を適切かつ効果的に活用しながら

「Ⅰ問題を発見」し、「Ⅱ問題を解決」する

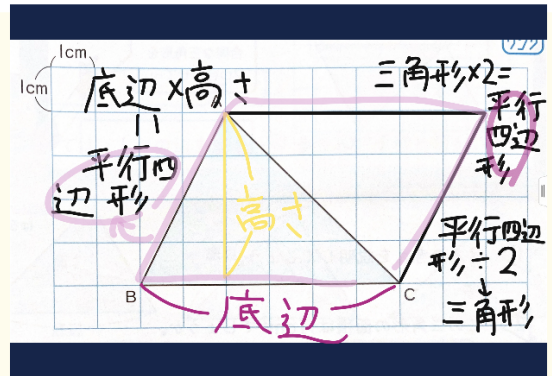
【討議の柱（仮説）】

- I ねらいへと向かわせるための、めあて・課題の位置付け方（問題を発見）
- II ねらいに迫る手立ての効果（問題を解決）



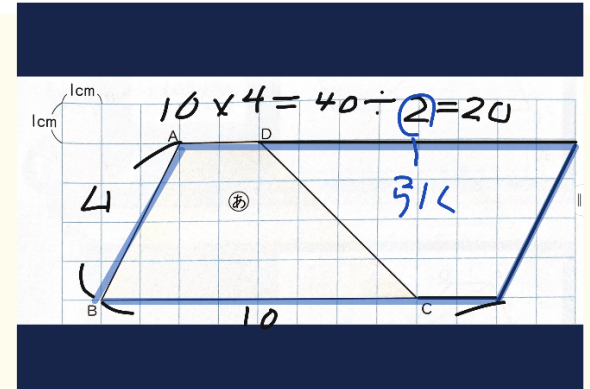
ICTを活用した授業づくりのポイント

① 問いを立てるための活用



既習内容を確認し、考え方の見通しを持たせる

② 問いを解決するための活用



一人一人に考えを持たせ、考え方を共有する

2 「情報活用能力の育成」を目指す授業研究とは



2 「情報活用能力の育成」を目指す授業研究とは

ステップ 3

B. 思考力、判断力、表現力等

「問題を焦点化し、ゴールを明確にし、シミュレーションや試作等を行いながら問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行する」

学校種 小学校 学年 第6学年 教科等 社会科 単元名 明治の国づくりを進めた人々

教科書に示されている挿絵から、気付いたこと、疑問に思ったことを書き出し、単元を通して追究していきたい学習問題「解体新書はどのようにして作られたのだろうか」「文化が発達したということは争いが無い時代だったのか」をつくる。

本単元に出てくる重要語句及び重要課題を示し、児童自身がそれらを決められた時間の中でどのように解決していくのかを考えるため、どの時間に情報を集め、整理し、まとめていくのかを割り振り、学習計画を作成する。教科書や資料集から個人やグループで情報を集め、タブレットPCのデジタルノートに、児童が適切な思考ツール(比較や分類を図や表を使って視覚的に行うもの)を選んで整理していく。

収集した情報を「政治」「文化」「社会・生活」で分類し、人物や出来事の関係や既習の時代とのつながりを明確にさせる。

整理した情報を基に単元で学習したことを、重要語句や重要課題、自分の学習問題が読み手にとって読みやすくなることを意識して文書資料にまとめる。

まとめた文書資料を活用して友達と交流する。その際、どのような情報があり、どのように考えたのかということを確認しながら説明し、聞いている児童は、自分が調べたことと比較しながら聞くことで、理解を深める。

最後に、アンケートをタブレットPCで実施し、単元の初めに立てた学習計画や、自らの情報活用について評価し、次の学習に活かすことができるようにする。



児童が作成した学習計画



情報を関連付ける



文書資料にまとめる



文書資料を基に交流する



資料から情報を読み取る



児童が作成した文書資料

単元・授業の流れ

情報活用能力の育成・活用に関する工夫等

学習問題や重要語句などを基に、収集した情報を整理させ、一人一人のめあてに合わせて文書資料にまとめさせる活動を通して、本単元で学習してきたことを振り返らせることで、学習したことを自分なりにまとめていく力を活用させることを目指す。



児童が作成した学習計画



情報を関連付ける



文書資料にまとめる



文書資料を基に交流する



資料から情報を読み取る



児童が作成した文書資料

情報活用能力育成のプロセス

情報及び情報機器を適切かつ効果的に活用しながら

「Ⅰ問題を発見」し, 「Ⅱ問題を解決」する

【討議の柱（仮説）】

- I ねらいへと向かわせるための、めあて・課題の位置付け方（問題を発見）
- II ねらいに迫る手立ての効果（問題を解決）



1 テーマ設定の理由

2 「情報活用能力の育成」を
目指す授業研究とは

3 具体的な取組に向けて

実際の授業づくり・研究に向けた関係整理

- ①各教科で育成を目指す資質・能力との関係
→授業者は何を目指して授業を行うのか？

- ②各教科の県の重点課題との関係
→事後研で何について話し合うのか？

3 具体的な取組に向けて

①各教科で育成を目指す資質・能力との関係

体育科 ボール運動 ゴール型 「バスケットボール」

単元を通してつきたい力（資質・能力）

「パスを受けるためのボールを持たない時の動き（技）」

I ねらいへと向かわせるための
めあて・課題の位置付け方

II ねらいに迫る手立ての効果



課題
パスを受けるためにどう動けば良いか

ゲームの後



課題の解決に向けて
「目指した動きを自分たちができているかな？」

3 具体的な取組に向けて

②各教科の県の重点課題との関係

算数	<p>①数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を明確にした単元及び授業を構想すること。</p> <p>②授業のねらいに則した評価規準及び評価方法を適切に設定すること。</p> <p>③資質・能力の育成に向けて1人1台端末を効果的に活用すること。</p>
----	--

【討議の柱】

- I ねらいへと向かわせるための、めあて・課題の位置付け方（問題の発見）
- II ねらいに迫る手立ての効果（問題の解決）

令和5年度校内研究テーマ

グローバルリーダーに求められる 確かな学力の育成 ～情報活用能力の育成～（1年次）

【討議の柱（仮説）】

- I ねらいへと向かわせるための、めあて・課題の位置付け方（問題を発見）
- II ねらいに迫る手立ての効果（問題を解決）